



■2/19 zoom講座「自然共生型の太陽光発電所のデザイン」報告

理事 高橋 喜宣

●講座「自然共生型の太陽光発電所のデザイン」に大きな反響

去る2月19日、「設立5周年記念ZOOM連続講座」第2回を開催、98名の申込を受け、大きな反響がありました。

●広がる再エネ嫌悪感

中野区で「全国メガソーラー問題中央集会」=写真=が開催。「パワースフト・キャンペーン実行委員会」でのソーラー反対派との意見交換会の席で「太陽光パネルを見ただけで、嫌悪感を感じる」といわれました。再エネはなんでもいいわけではない！ 自然保全や対策が必要だ！ そんな中、スイス在住の滝川薫さんに出会い、今回、講座の講師をお願いしました。



●自然推進型の太陽光発電施設 オーストリア首都と南ドイツの事例

「ソーラーパークの敷地は緑のオアシス」とウィーン市所有のウィーン・エネルギー公社の広報官。設備容量1MWのリーズィク・ソーラーパークは貴重な緑地。パークは同社の地域熱供給地域に隣接する1.7haの空き地に建設され、600人の市民が出資して完成。絶滅危惧種であるハムスターをはじめ、多様な昆虫、鳥類、植物が確認され、開発前よりも多様性が向上し、「NPO 都市養蜂家」がこの草原から年100kgのハチミツを収穫。ミツバチの貴重なビオトープになっています=写真。

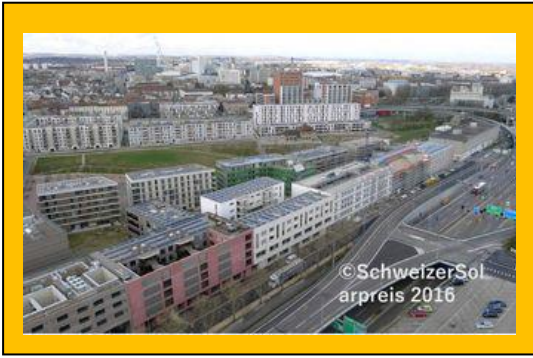


一方、南ドイツのモースホーフ・ソーラーパークでは、模範的な自然推進型対策が自然保護団体との協力で行われています。鉄道線沿い17haの農地の太陽光発電施設で、地域では最大規模。自治体エネルギー公社と市民エネルギー協同組合、市民エネルギー企業のソーラーコンプレックス社（運営担当）が共同出資。在来種の草原群落の種をまき、草刈りは年に2度だけ。従来の畑では見られなかった多くの昆虫や植物、動物が生息するビオトープ空間に。刈り取った草は、近隣のバイオマス設備で発酵原料とされています。

●野立て太陽光パネル設置は不可、自家消費型コミュニティが400ヶ所以上

スイスでは70年代から脱原発の市民運動がありましたが、多数派ではありませんでした。が、変わったのが福島第一原発事故。エネルギー戦略も大転換もしましたが、太陽光パネルの野立て設置は許可しません。しかし、建物の上や側面を利用するだけで国内の電力の約4%を供給。また、公的な系統を使わな





い、自家消費型コミュニティが国内で400ヶ所以上あります。

写真はその中の最大級規模のバーゼル市内エルレンマット東地区のもの。すべての屋根に合計850kWの発電所を作り、10棟400世帯に100%再エネの電気・熱を供給。地下水ヒートポンプで地域熱供給し、温水タンクに余剰電力を貯め、電気自動車充電ステーションも設置。



■ 『脱炭素戦略のさらなる進展を求める陳情』 3/12 川崎市議会 環境委員会の審査結果は不採択！？

正会員 永田 眞一

「再生可能エネルギーの促進に関する条例の制定を求める署名」にご協力いただいた皆様、寄付や署名へのご協力、本当にありがとうございました。

陳情者である川崎地域エネルギー市民協議会の結果報告を以下に記載します。

写真：12/11、松田代表が「再エネ条例制定」の署名10,493筆を議会事務局へ提出。

昨年12月11日に10,493筆の署名を付け提出していた陳情書に対する審議が、3月12日川崎市議会環境委員会にて2時間弱にわたり活発な討議が行われました。

評決結果は、3、があるからという理由で、『不採択』となりました。環境局答弁で、市は「川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例」が既にあり、その中で再生可能エネルギーの利用に関する記述があるので「再エネ条例」は必要ないと考えられる。というものでした。



陳情書では以下の3点について要望しました。

- 1、脱炭素戦略マイルストーン目標（2030年目標）の早期実現
- 2、激甚化する自然災害による停電に備え、地域に密着した小規模分散型発電設備を設置していくための具体策
- 3、「再生可能エネルギーの促進に関する条例」制定の検討

論議の中で、1万筆超の重みということを受けとめる必要がある。これだけ多くの人が温暖化の問題に関心があるのだから、そういう人たちの声をとらえる努力をすべきではないか。という意見が何人かの議員からありました。

今回、残念ながら『不採択』という結果でしたが、「一事不再議の原則から今後（再エネの）審議を可



能とするための審査結果」と、委員会では解釈されています。

多くの方のご協力により、中味のある陳情になったと思っています。

今後は、私たちも再生可能エネルギー推進の具体策に取り組んでいくと同時に、令和3年度に検討される「地球温暖化対策推進基本計画」の見直しのなかで、2030年目標の見直し、再生可能エネルギーが大幅に増えていく内容になるように活動してまいります。



■3/7「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会の報告

理事 鴨下 元

福島原発事故から10年、「第10回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会が、初めてオンライン集会（ZOOM ウェビナー）という形式で2021年3月7日開催され、250名を超える方が参加しました。

オンライン集会では、「生業を返せ！地域を返せ！」福島原発訴訟、事務局長の服部浩幸さんが福島県から今も続く闘いを報告してくれました。原発事故から10年経っても「36000人以上がふるさとに帰れずにいる」、統計の取り方でこの数字に表れない避難者もいると服部さんは訴えました。

また、元東芝の原子炉プラント設計技術者の後藤政志さんが専門家として原発の危険性を話しました。日本の原子力規制は、福島原発事故の教訓を忘れて「想定内の呪縛」にとらわれており、事故対策が失敗した時のことを無視しているという問題があると指摘しました。

さらに、首都圏に暮らす私たちにとって最も危険と言われる老朽化した東海第二原発の再稼働に反対する活動にとりくまれている「脱原発ネットワーク茨城」共同代表の小川仙月さんも発言しました。

市民団体のリレートークでは「NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所」をはじめ6団体が訴えました。

録画放送で文化行事（和太鼓、合唱、腹話術）もおこなわれました。

毎年、中原平和公園にて1000名規模で開催してきた「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」は、新型コロナウイルスの感染防止のため、今年はオンライン集会になってしまいましたが、来年は対面での大規模な集会とデモにしたいと思っています。私たちの運動は「原発ゼロ」を実現するまで終わりません。世界では福島原発事故を契機に、再生可能エネルギーを普及させ原発をやめる動きが広がっています。がんばれば日本でも「原発ゼロ」は実現できます。次の原発事故が起きる前に、流れを変えるために一緒に声をあげましょう。「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」に、引き続きご支援、ご参加をお願いします。



福島県から福島原発事故被害者の闘いについて報告する服部浩幸さん



元東芝の原子炉プラント技術者として原発の問題を訴える後藤正志さん



野村 美湖さん(かわさき生活クラブ生協 組合員)

結婚を機に幸区に転入し、今年で21年目になります。2003年の第1子出産を機に生活クラブの組合員になり、7年ほど育児時短勤務の会社勤めを経て、2011年の東日本大震災を契機にどんな暮らしがしたいのか考え直し、第3子の出産に合わせて退職。産後、子連れでも参加できると聞いて、生活クラブの組合員活動に参加するようになり、あっという間に気付いたら理事も3期目に入りました。

原発ゼロ市民共同かわさき発電所との出会いは、私が理事1年目のとき。キララ賞(参照：<https://kanagawa.seikatsuclub.coop/activity/kirara/>)の運営委員になり、生活クラブ高津センターでキララ賞交流会のゲストとして川岸さんをお招きしたときに初めて伺いました。311の後、自分は暮らしを大きく変えた気になっていましたが、社会を変える活動・運動とはこういうことなのか、と、自分よりずっと若い川岸さんのお話に感銘を受けたことを思い出します。

その後、原発ゼロ市民共同かわさき発電所は「生活クラブでんき」の生産者になりましたが、自宅のマンションは一括契約のため電気を切り替えることはできずとても残念に思っています。そんな私でもできることとして、発電所4号機の建設協力金に1口ですが出資しました。同じように残念と思う人がいたら、まだできることがあるんですよ、とお伝えするのが嬉しいです。

先日、中学3年生になった二女が「プラごみとか気候危機とか、もう希望ないじゃん」と、がっくりするのを聞きました。この子は私が生きる時代より、もっと過酷な環境の中で生き抜いていかなければならなくなるかも知れません。やらなかったことを後悔するような生き方はしたくない、責任ある大人として子どもたちに向き合いたい。今日より明日、少しはいい親・いい大人になれるように、これからも楽しみながら活動していきます。

昨年の「おひさまフェス」に出店



原発ゼロ市民共同かわさき発電所は、いつでも**会員募集中**です！

【編集後記】

4/13、政府は、福島原発のALPS処理汚染水(放射性物質トリチウム)を福島沖へ海洋放出する方針を決定した。またしても地元の声は無視された。どうか、これ以上福島の人を苦しめるのは止めてください！「薄めて流せば安全」など、国際社会に対しても決して許されることではありません。(加藤伸子)

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090—7948—6189 (川岸)

でん太通信は、ほぼ隔月15日に発行しています。

